

第1回安曇野市地域公共交通協議会幹事会 会議概要

1	委員会名	安曇野市地域公共交通協議会幹事会
2	日時	平成20年5月19日(月) 午後1時30分～2時55分
3	会場	安曇野市堀金総合支所 301会議室
4	出席者	奥山委員、三村委員(代)岡沢委員、清澤委員(代)藤井委員、小林忠由委員、小岩井委員、耳塚委員、樋口委員、甕委員、尾台委員、二木茂光委員、小平委員、小林忠孝委員、米倉委員、会田委員、水谷委員、斉藤委員、勝家委員(代)丸山里多委員、宮崎委員、曲渕委員、坂内委員、土肥委員、丸山好夫委員、二木一雄委員、久保田委員、大内委員、上手委員(代)平尾委員、土井委員(代)皆川委員 市出席者(委員以外)小倉企画政策課長、猿田課長補佐、中山主任
6	公開・非公開の別	公開
7	記者	5人
8	傍聴	0人
9	会議概要作成年月日	平成20年5月26日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会 (小倉企画政策課長)
- (2) 挨拶 (奥山教授)
- (3) 議題 (事務局)
 1. 「あづみん」試行運行状況について
 2. 平成19年度の検討状況と今後の取組みについて
 3. 松本電気鉄道株式会社からの不採算バス路線の見直し協議のお願いについて
 4. その他
- (4) 閉会 (小倉企画政策課長)

2 協議概要

1. 「あづみん」試行運行状況について(事務局より説明) ……資料1、資料3

<資料1 「試行運行状況」
 資料3 『長野県安曇野地域における公共交通システム構築』に関する調査業務報告書(概要)>

- a) 資料1、資料3に基づき、平成19年度の試行運行状況が報告される。
- ・2月11日現在の「あづみん」区域別登録者数は、合計22,367人であった。
 - ・平成19年9月10日に試行運行が始まって以来、1月31日までの利用者の延べ人数は、24,730人であった。「定時定路線」利用者の延べ人数は、3路線を合計して1,452人であった。
 - ・各地域の利用者数は、月を追う毎に増加しているが、「あづみん」開始以前から既にデマンド交通システムを導入していた堀金地域はほぼ横ばいという結果であった。
 - ・試行運行初日の利用者合計は113人であったが、2月18日には合計388人を記録した。月毎の利用者平均人数は徐々に増加している。19年度は134日の運行日があったが、1日の利用者平均人数は287.1人となった。
 - ・料金別の利用者数は、100円の利用者が全体の約28%を占めていた。
 - ・年代別の利用者数は、70代以上の利用者が全体の約70%を占めていた。
 - ・3月31日現在、合計登録者数は22,722人であり、市の人口の22%程度であった。
 - ・乗降場所ランキングでは、安曇野赤十字病院と大型商店が1位、2位を占めた。スーパーマーケット、病院、公共施設や駅、福祉関係施設等が多かった。
 - ・「定時定路線」の1日あたりの利用者平均人数は15人であった。20年4月の状況を見ると、1か月の利用合計人数は505人となり、1日平均24人の利用があった。定期券を購入した

高校生などが新たに利用を始めた結果である。

幹事長 : 事務局より、昨年 9 月 10 日の試行運行初日からの「あづみん」並びに「定時定路線」の運行状況の説明がございました。短時間で資料 1、資料 3 の 2 つの資料を見ながらの報告でしたが、疑問点や確認したい点などございましたらお出しいただきたいと思えます。よろしいでしょうか。もしお気づきの点などありましたら、後からでも結構ですのでお願いいたします。

2. 平成 19 年度の検討状況と今後の取組について (事務局より説明) …資料 3、資料 4

<資料 3 『長野県安曇野地域における公共交通システム構築』に関する調査業務報告書(概要)>

資料 4 「安曇野市地域公共交通総合連携計画の概要」 >

- a) 資料 3 に基づき、これまでの調査、検討状況と今後の取組について事務局より説明される。
- ・『長野県安曇野地域における公共交通システム構築』に関する調査業務報告書(概要)は、国土交通省がまとめた報告書の概要版である。
 - ・18 年度から調査をしているが、そこで明らかになった課題があった。地域交通施策に対する費用と便益のバランス、利便性の高い地域交通網の創出、住民の移動動線をカバーする交通手段の確保、地域格差のない共通サービスの提供、観光振興との融和、新しい交通システムの選択の 6 項目である。
 - ・18 年度調査を受け、19 年度も各地域の住民意向を十分に反映した新たな公共交通システムの実現を目指し検討を重ね、9 月 10 日から全市的な新公共交通システムの試行運行を始めることとなった。以降、試行運行を行いつつ、より良い公共交通としての確立を目指し、課題を把握するため、運行状況の分析や住民の方々の意向調査を行ってきた。
 - ・それに加え、観光施策と連動した公共交通のあり方、方向性を定めるために、観光関係者からヒアリングを行った。
 - ・試行運行において利用者のニーズを調査するため、19 年度にはアンケートを 3 回行っている。
 - ・利用者の性別は、女性が 80% 台で大多数を占めていた。年代は 70 代、80 代の方が中心で、全体の 60~70% 台の方が午前中に利用していた。
 - ・利用回数は、調査を重ねる毎に複数回利用者が増加し、第 3 回目では「初めて」と回答した方は 7.5% と少ない結果となった。
 - ・利用目的は通院が半数近くを占め、買物が次点であった。
 - ・予約が必要な点については第 3 回目では 76.6% の方が「気にならない」と回答し、過去の調査と比べ上昇が見られた。予約の難易度も「簡単」と答える方が回を重ねる毎に増加し、予約経験を積むに従い難を感じなくなってきたと考えられる。
 - ・オペレーター、運転手の対応は元々「良い」という回答が過半数を占めていたが、第 3 回目ではほとんどの方から好評を博した。
 - ・乗合いについても「気にならない」との回答が多数であり、第 3 回目では 86.0% まで上昇したが、「やや気になる」利用者も常に数%は存在した。
 - ・「外出の回数が増えた」「行動範囲が広がった」利用者は徐々に増える傾向にあった。
 - ・「あづみん」の良い点は「家まで迎えに来てくれること」という回答が 70% を占め、今後も使うと回答した方は、第 3 回目では 100% 近くになった。
 - ・同システムの課題として、一つは利用状況の地域的格差がある。人口の多い豊科、穂高地域は利用者の割合もそれなりに高く、従前からデマンド交通システムが導入されていた堀金地域も高い割合を占めている。
 - ・また、時間延長・休日運行・増便への強い希望も多い。料金が「高い」「やや高い」と感じる利用者も一定割合で存在する。
 - ・三郷地域については、地域内での移動の他に松本への移動が高い割合を占めている。定時定路線に関する調査でも、JR との接続を要望する声が多く出ている。そういった近隣市街地への移動を検討することが今年度の課題である。
 - ・観光分野における公共交通の検討も大きな柱である。18 年度に行った観光アンケートでは、安曇野までの交通手段は 87.1% が「自家用車」という状況であった。

- ・その状況を踏まえ、19年度には山小屋関係者、宿泊関係者、交通事業者等の方々にヒアリングをさせていただいた。
- ・観光分野における公共交通の課題として、情報提供の整備がある。安曇野観光の特徴はリピート率が高いことであるので、タイムリーな判断情報の提供を整備して誘客を図り、周遊コースを設定して交通手段を提供し、パークアンドライド施設等を整備し、また検討することが課題である。
- ・山小屋関係者のヒアリング結果からは、自家用車で訪れる登山客が多いことが分かった。よって道路整備や駐車場の確保が不可欠であると考えられる。
- ・公共の宿関係者からのヒアリング結果からは、各施設とも利用者の送迎を行なっているが、観光施設までや小口送迎の対応までできない実態が明らかになった。
- ・タクシー事業者及び観光協会からは、駅に降り立つ登山者が少なくなっているという指摘があった。安曇野の魅力である風景や写真スポットになるような景観などの情報が不足しており、また穂高エリア以外の観光情報の共有ができていないという問題もある。スポット間を移動できる交通手段の検討も必要であると思われる。また、冬場の観光資源の確保が急務であるとの認識が示された。
- ・今後の方向性としての基本的な考え方は、住民の意向を十分に把握・反映した生活交通の確保・充実、受益者負担や利用の増加の適正化を図りサービスを継続できること、高付加価値の交通サービスとして運行ができること、観光に寄与し安曇野地域の振興に貢献できることの4項目である。
- ・新公共交通システムの課題についての改善策としては、PR活動や会員登録の促進、運行方法の検討がある。
- ・観光分野公共交通については、情報提供のあり方、パークアンドライド施設の整備活用、既存交通との連携、市の観光振興に対する考え方や理念の明確化、市全体の観光と地域公共交通発展に対応するための関係者の意見課題の共有が課題としてある。
- ・これまで議論してきた内容を「安曇野市地域公共交通総合連携計画」としてまとめている。この計画に沿って今後も取り組んでいきたいと考えている。

幹事長 : これまでの2年間の取組についてまとめた、非常に中身の濃いものの要点を、資料3、資料4を中心に事務局から説明をいただきました。
今の説明について、疑問点や確認したいことなどありましたらお出しいただきたいと思います。

宮崎委員 : 「定時定路線」の利用者がこの4月から増えたということですが、定期券を使っている方の割合が分かれば教えていただきたいと思います。
それから「定時定路線」ではパークアンドライドということで駐車場を用意していますが、その利用状況もできれば示していただきたいと思います。
3点目として、ナイトラインの利用状況も教えていただきたいと思います。

事務局 : 「定時定路線」の定期券利用者の割合は、特に利用者が増えた穂高・明科線について説明します。
4月は利用者の合計が254人で、うち現金払いの大人が42人、学生が80人、通勤定期の方が延べ21人、通学定期が延べ111人でした。
パークアンドライドの駐車場の利用状況ですが、穂高・明科線、豊科・田沢線共に駐車場を利用している方は残念ながら一人もいません。
ナイトラインの利用状況ですが、資料1-3の中の「高校生送迎」という欄が実際の数字にあたります。全体の中ではそれほど多くないという認識です。

宮崎委員 : 穂高・明科線で、通勤定期を購入している方が全体の1割程度いるにもかかわらず、パークアンドライドの駐車場を誰も使わないというのは、どのように考えればよいのでしょうか。

事務局 : 現在は利用者の方は最寄のバス停や駅から乗車しており、わざわざパークアンドライドの駐車場に車を停めて乗るといった方は少ないという状況だと考えています。

宮崎委員 : 今後の課題でもあると思いますが、これはパークアンドライドの施設そのものの問題であるのか、駐車場の位置の問題であるのか。例えば駅周辺ではなく住宅地などに駐車場があれば利用

が増えるのかといったことは、今後は是非検討いただければと思います。

幹事長 : そのあたりのことが、後ほど事務局より説明があると思いますが、今年度の作業部会で詰めていかなければならないテーマです。定時定路線は定期を購入した高校生の通学、帰宅で利用が伸びていますが、ナイトラインは夕方の帰りの部分しかやっていませんので、行きも帰りもあればもっと乗るのか。また、パークアンドライドを利用したいと思っている方が希望しているところに駐車場がないということなのか。どういう状況でこのような利用実績になっているのか、裏に隠れている状況をできるだけ部会で調べさせていただき、この幹事会に上げていくのが大きなテーマになるだろうと思っています。
今年度幹事会を進めていく上での、今までの総括と現状で考えられる課題がこの議題2のテーマです。ポイントとなるものがあれば、それぞれの地区や関係団体からお出しいただければと思います。

水谷委員 : 近隣市街地への移動についてです。三郷地域は松本に行く方が多く、デマンドの利用者も登録者も少ないという実態がありますが、アンケートでは他地域への移動を望む声がほとんどないのはどうしてでしょうか。

事務局 : 三郷地域の利用者が伸びないのは松本へ行く方が多いからということもあるでしょうが「あづみん」をよく利用されるのは運転免許を持っていない高齢の女性の方々です。三郷地域は元々交通体系がなかった地域ですので、免許をお持ちの方が多くのではないかと思います。それから一日市場駅に行く福祉バスなども走っているので、そちらの利用実態を調査して検討していきたいと考えています。いずれにしても色々な角度から考えていきたいと思っています。

水谷委員 : これは「あづみん」利用者の方々から採ったアンケートなのですか？

事務局 : 資料3の16頁に載っているものは、18年度に65歳以上の方全員にお出しして、50%を超える回答をいただいたものですので、新公共交通システムを導入する以前のかかなり古いものです。その他に途中で出てくるアンケートは「あづみん」の運行が始まってから利用者の方に聞き取りなどをさせていただいたもので、時期も違いますし、質問内容にもブレがあることから、もう一度整理し直したいと思っています。

b) 今後の取組に関連して、事務局から提案がある。

事務局 : いくつか提案させていただきます。
先日の5月10日に「あづみん」受付センターのオペレーターとドライバーが意見交換をする場を設けたのですが、その中で何点か要望や提案が出ました。
一つ目は、市の施策としても考えていたことですが、乗降場所が分かりにくい大きな店舗などに、バス停のようなものを設けるかシールを掲げて分かりやすく明示したいということです。
二つ目は料金の受け渡しについてです。現行のルールでは、降車の際に料金や回数券をドライバーに渡していただくことになっていますが、1日運行している間には、受け取り損じてしまうケースもあるそうです。そういったことを防ぐためにも、乗車時に渡していただくように変えていきたいということです。
三つ目は回数券についてです。現在は3,000円で11枚綴りのものがありますが、割引はしなくても良いので、100円券の10枚綴りのものを用意してほしいという声がかなりあります。こちらを販売することにより、小銭がなくてもスムーズに乗降できるように改善することを考えたいと思っています。
それから受付センターの電話が混みあって繋がりにくいという声も聞きます。事後報告で恐縮ですが、この4月1日から社会福祉協議会の方で、忙しい午前中だけオペレーターを一人増員し、ピーク時には7人体制で受付をさせていただくようになりました。
もう一点、市外への移動の関係ですが、既存交通の利用ということで、相談をしたり改善点は提案したりしていく必要があると思っています。国土交通省を通じてJRさん等に声をかけさせていただき中で、まずは事務局レベルで課題の抽出や協力し合える点を探っていきたいと思っています。

幹事長 : 実行に移して良いか幹事の皆様にお諮りしたいということで、事務局から大きく3点提案がありました。一つは大型店舗等に乗降場所の目印になるようなものを設置するというものです。二つ目は忙しい時間帯の料金の受け渡しに関してで、受け取り忘れを防ぐためにも代金を先にいただくということで統一していきたいということです。三つ目は、100円券が10枚綴りになったものがあれば支払もスムーズですし購入しやすいということです、そういった券を発行したいということです。

是非この3点を実行に移したいということです。何かご意見等ございましたらお出しいただきたいと思えます。

ドライバーとオペレーターが現状について話し合い、出された改善点ですので、認めていただけるということでよろしいでしょうか。

なお、多いときには受け付けセンターに700本ものコールがあるということで、スムーズな作業のために午前中一人増員し7人体制とし、更に予約しやすい状況を作っています。

一方で、この時間に間に合うように行ってくれとか、車椅子が乗れないのかとか、様々な意見要望が上がってきています。そういったものを、後で提案いたします作業部会で一旦正式に調査し、どのような形で改善を図っていくかということを経験させていただき、幹事会に上げていくということになります。

何かその他に、今年度の幹事会の検討に当たって、事務局に考えてもらいたいテーマなどがありましたらお出しいただきたいと思えます。

甕委員 : 先日豊科地域審議会で、一般会計予算の概要という資料をいただいたのですが、新公共交通運行ということで1億2,500万円の予算が上げてありました。システム導入前の財政シミュレーションとかなり金額が変わっているような気がしますので、次回以降財政シミュレーションの現状を教えてくださいたいと思えます。

事務局 : 本年度の予算の概要ですが、約1億2,500万円の予算を見ております。その中で、財政シミュレーションの数値として、運行費で必要なのが7,100万円程度とさせていただいています。約1億2,500万円の主な内容は、システム構築に必要な7,100万円以外に、長野県から合併特例交付金をいただく中で運行車両の中で古いタイプのワゴン車を買換える費用などが別にあります。あるいは乗降場所を整備する費用など、初期投資用のものが別にございますので、ご理解いただきたいと思えます。

甕委員 : 国土交通省さんの再生事業の方も状況が変わっていると思えますので、そちらもお示しいただければと思えます。

事務局 : それについては後でまたご説明いたします。

幹事長 : 正式な交付決定は本日の夕方ということですので、後でまた北陸信越運輸局の方から説明していただきたいと思えます。

3. 松本電気鉄道株式会社からの不採算バス路線の見直し協議のお願いについて (松本電気鉄道株式会社 運輸部部长 小林忠由幹事より説明) ... 資料2

<資料2 「不採算バス路線の見直し協議のお願い」>

a) 資料2に基づき、小林忠由幹事より説明がある。

小林幹事 : 貴重な公共交通協議会幹事会の席で上程させていただきます。

本来ならば自主営業で頑張るのが事業者の責務なのですが、今般手前どもは公共性が高いといえども民間企業ですので、それぞれの営業路線の日々の検証というのは業務の中でしていかなければなりません。新聞報道でもありますけれども、昨年12月から今年2月にかけて、手前どもが地元の皆様の足代わりとして営業させていただいています一般フリーバス路線について検証させていただきまして、この4月30日に、それぞれの営業が行われています自治体

の市長様等々首長様に提出させていただきましたのが、この資料2でございます。今回はこの不採算路線の見直しの協議の申し入れということで、安曇野市の平林市長様の方にこのレジュメを提出させていただきました。直接安曇野市に係る部分は、自主営業が現状では極めて困難である会田線、立田線の廃止という部分です。これらは自主営業路線としては、1日平均乗車率が3名以下という路線でしたので、弊社として定時定路線の営業は極めて厳しいという申し入れをさせていただき、協議に入らせていただきたいということです。

会田線は明科駅が発着場所で、旧四賀村に向かう路線として4系統ありますが、こちらの安曇野市管内の平均乗車率は、1便あたり1.8名でした。

今般は3名以下の路線を自主路線としては存続不可能であるという申し立てをさせていただきましたので、今回この幹事会の皆様にもお諮りし、ご当地の安曇野市様と早急な協議を行わせていただきたいということです。地元で長く営業させていただいている事業者ですので、国交省へ申し入れ、6か月間の期間の中でお認めいただける廃止論だと思いますけれども、それぞれの地元のご確認が取れば、30日での届出の中で路線廃止ができます。今までの営業履歴の中で、やはり地元の皆様との協議が整ったという形でやらせていただくのが、お世話になった事業者としてでき得る最善の措置法ではないかと思っておりますので、この席で上程申し上げまして、慎重なる審議、ご意見等を頂戴できればという次第です。

利用実績は地元から若干お問い合わせなどいただいておりますが、なかなか厳しい営業路線ですので、認識いただけるかと思っております。よろしく願いいたします。

事務局 : 市として補足させていただきますと、この4月30日に市長の方に申し入れをいただいております。私ども交通政策の担当としては、地元である明科総合支所の担当等を通じ、区長の皆さんにはご一報を入れさせていただいております。実際に廃止になれば、小学校の通学に7名の児童がスクールバスとして使用していますので、利用者の皆さんや教育委員会等々との調整や代替策が必要になると思っています。会田線につきましても私ども安曇野市だけを走っているものではありませんので、当然松本市の考えや情報交換が重要になってくると思います。そのあたりも慎重に対応していくつもりです。

皆川委員 : 今松電さんのほうからご説明のあった内容で、大方の流れが決まってきます。国としては、すぐに廃止ということではなく、十分な審議をしながら決めていこうという考えでございます。この会議や松本市の会議もそうですが、新しい交通システムを考えていくんだという位置付けの、未来志向型の会議ですので、こういった場を活用しながら、代替交通機関を含めて検討して参りたいということです。

幹事長 : まず松本電鉄さんの方から、4月30日付で方針として出された、対象3路線が廃止になるということのご報告がありました。次に事務局の方から、明科総合支所で現在利用者として把握している7名の児童の送迎については、廃止前までに代替送迎を含めて検討していきたいという考えが出されました。

以上の報告を受けまして、各委員の方々から、ご意見などお出しいただきたいと思っております。よろしいでしょうか。これはお認めするというよりは、それぞれの自治体が行政としてどう考えるか総合的に確認して、最終的に廃止という方向になっていくのだと思います。1便あたりの乗車率が3人を切っているということで、自主運営の事業者として存続することができないという方向での提案でしたが、この幹事会としてはお聞きしておいて、廃止までに現状の利用者の送迎をどうするか、対応を市が決めていくということで、検討に入りたいということです。それでは議題1から3まで含めまして、先程話題に出ました連携計画を国の方でお認めいただいている経緯がございます。まずこちらをご説明いただき、今年度立ち上がります作業部会についても、事務局より追加説明をお願いします。

事務局 : 資料4が、先程ご説明しました連携計画の概要及び連携計画ということで、前回の3月26日に審議いただいております。若干修正させていただいたところもありますが、翌3月27日付でホームページ等に公表させていただいております。今後3年間の「あづみん」等の実証運行、またそれに関係します20年度の調査業務や、来年度以降に向けて発展させた内容などの事業計画の認定申請を上げさせていただき、4月1日付で認定証の交付をいただいております。全国では171件の認定をいただいたそうです。また、併せて補助申請もさせてい

ただいまして、近々4月1日付で決定していただけるものと思います。
今年度の具体的な進め方について、協議の方向は先程ご審議いただいたところですが、昨年開いた観光ワーキンググループ会議をこの協議会の部会として組織したいと思います。大きな課題としては観光客の対応や市外への移動について、あるいは既存の公共交通の利用促進をいかにして図るかという3つの大きな柱があります。必要に応じて人員を入れ替える必要があるかもしれませんが、作業部会を組織し何度か総合的に議論させていただき、幹事会でご審議いただきたいと考えているところです。第1回目は、7月2日の午後を開催したいと考えています。メンバーはある程度事務局にお任せいただきたいと思います。

幹事長 : 昨年度の観光ワーキングと同じようなかたちで作業部会を立ち上げたいというお話です。今回の部会は、幹事会での議論をより深めていくため、様々なテーマに関して濃密な議論を交わす場として立ち上げたいということです。観光というものが大きな一つのテーマになると思います。また、要望等でも上がってきております市外移動の件や、既存の公共交通の利用促進といったこともテーマです。それぞれ関連することですので、個別に部会を設けるわけではありません。

また、全国171件のうちのひとつとして安曇野市の連携計画が認定を受け、今週中には補助金の交付決定をいただけるという段階に入っています。その中に謳われている事業の実施に向けての細かな詰めをこの部会でやっていくということです。メンバーは事務局が責任をもって構成していきますが、幹事会の委員の皆様の中で、作業部会に入って議論していきたいという方は、是非積極的に加わっていただければと思います。

連携計画については、全国171件の中で最も多いのが長野県の市町村だそうです。その担当をされている運輸支局の方がお見えですので、補足も含めてご説明をいただければと思います。

皆川委員 : まだ交付決定前ですので、細かいところは言えない部分もあります。30億円の予算がついたということは前々から会議で申し上げてきたことですが、だんだん声が小さくなってきたような気もしているところです。というのも実は既に50億円もの規模の申請がありまして、確実に予算をオーバーしているような状態です。しかし公共交通というのはいずれの地域にとっても非常に重要な問題であるので、ここは良いがこちらは駄目だという峻別をするのではなく、一定程度要望に応えざるをえないだろうと。足りない部分はどうするのかという問題はありますが、このような会議で皆さんのお知恵をお借りする中で効率化を図りたい。また全国的には相当膨らませた部分があるでしょうし、上の方で相当な部分を査定していると思っておりますので、様々な効率化を図りながら、初期に想定した部分につきましては完全に実施していきたいと考えております。

恐らく今晚の決定だと思しますので、次の会議の時にはご報告でき、また詳細な事業計画をご説明できるだろうと思います。それについてはまた皆様に見ていただいて、ご審議いただければと考えております。

幹事長 : 全国的にも大きな課題だとして地域交通が注目を集める中、あまりにも予想外の数の申請ということで、国交省では嬉しい反面頭を悩ませているという段階だということです。

以上その他としまして、この計画認定、補助金交付を受け、今年も全面的な支援を受けながら会議を進めていけるとのことでした。また会議を能率化するために作業部会を立ち上げたいという2点について説明がありました。

議事の3点を含めて皆様の方から、今年度テーマとして上げてほしいポイントなどありましたら、最後の質疑ということで、時間を取りたいと思います。

事務局 : ご承認いただければ、次回の作業部会を7月2日に予定したいと思っております。幹事の皆さんの中でご参画いただける方がいらっしゃいましたら、是非事務局にお申し出いただきたいと思っております。

また前回の会議で、4月1日付で運行や運行管理の契約を昨年度と同じような内容で事業者4社及び社協さんとさせていただくという話をしましたが、今その作業をさせていただいています。実際にこれから調査業務を行うコンサルとも委託契約をさせていただきながら、作業部会等に対応していきたいと思っております。

幹事長 : 作業部会の人選をしてできるだけ早く会議を動かしたいということで、7月2日に第1回を開催したいとのことです。この安曇野市は全国的にも注目されていて、かなり視察にも来られているということをご存知だと思いますが、私としては安曇野市が2年間近くかけて真剣に議論し「あづみん」というサービスを購入しているのだと考えています。地域自らがどういうサービスを購入するかを決定していくことが非常に重要です。悪いものは買い替えればよいので、一つひとつ買い替えるあるいは改善を要望していくことを、自ら立ち上げた組織の中でやり切っていくということが大事です。これからの地域でもう一つ重要なことは、売れるサービスを作っていくということです。そういった意味では、安曇野市は観光に関して非常に可能性のある地域です。是非今年度から次年度にかけて、売れる観光サービスを作っていくということで、作業部会を真剣に動かしていきたいと思っています。行政に頼りきりでは良いサービスは生まれないということはもう露呈していることです。是非興味のある方々に参画していただき、自らが汗をかいて提案をしていただく以外良いものは生まれてこないということは間違いありません。毎回の出席は無理でも、オブザーバーとして通知を受ければその都度テーマごとに入りたいという形でも構いませんので、事務局にお声がけいただければと思います。それでは予定していた議事が終わりましたので、事務局にお返しいたします。

事務局 : ボリュームのある内容を慎重に審議していただきありがとうございました。以上をもちまして本日の会議を閉会と致します。

以上